

1. 手術室の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い手術看護を提供する

周術期看護向上への取り組みとして、術前訪問を行い、100%の実施率となった。アセスメント能力の向上を目指し、術前訪問がどのように術中看護に活かされたか事例検討を重ねた。さらに考える力を養えるよう手術看護認定看護師を中心に日々の OJT で教育したことにより、カンファレンスも定着し術前訪問の意義を共有することができた。また術後訪問では、術後訪問マニュアルを作成し、副看護師長とペアで術後訪問を開始した。実施率は 18%だったが、訪問内容が術中看護の評価材料となり、病棟と連携できたことでスタッフのやる気につながった。

術中合併症では、皮膚表皮剥離件数 6 件(前年度 15 件)、神経障害 4 件(前年度 3 件)、発赤 3 件(前年度 7 件)の発生であり、重大合併症はなかった。ソフトナースと貼付剤(アレビンライフ)の使用基準を作成し他職種で共有した。術中の除圧はほとんど行っていなかったため、院外研修で習得した技術を基に除圧方法を体位固定マニュアルに追記し、医師に術中除圧することのコンセンサスを得て実施のタイミングを取り決めた。結果、下半期で体位固定による発赤・表皮剥離はゼロであった。看護記録の質的監査では、実施率の低かった項目に対し OJT を強化した。結果「根拠を基に実践したことが記録に示されている」62%→80%、「実施した看護に対する患者の反応が明記されている」34%→57%と上昇し、記録の質の向上に繋がった。今後看護記録の基準を作成し、看護が見える記録になるよう取り組んでいく。手術室での倫理的感性を高めるために、スタッフから提案された事例を元に、ジレンマを抱いたことや望ましい対応について小グループで話し合い意見交換を行った。その結果、倫理的対応が可能となり、行動変容につながっている。

2) 病院経営に参画する

SPD と連携して死蔵品とにならないよう定数管理をした。新型コロナウイルス感染症の影響で供給が不安定な材料を早期に把握し医師と連携・調整し、手術に支障のないよう管理した。また、手術キット衛生材料を見直し年間 3,357,220 円経費削減できた。しかし、物品の紛失は 1 件あった。取り決めが順守できていなかったことが要因だったため、物品の定数を表記し担当者を置いた。その後の紛失はない。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

看護師による 3b 以上のインシデントは発生していない。医療安全キャンペーンで「指差呼称」を強化したところ、指差呼称実施率 25%→100%で、確認不足によるインシデントが 22 件→14 件に減少した。針刺し事故は、前年度と比べ 40%減となり 3 件であった。すべての要因分析を行い再教育したことにより、個人の意識は高まった。感染防止対策として、カネパス使用料は手術室全体で前年度より 6%増加し、クリーンホール入り口では入室制限をしたため、13%減少した。PPE の定着率は 100%、器械展開時の 2 重手袋実施率は 100%であり、手術室全体で取り組んでいる。

4) 専門職としての能力開発に努める

新人看護師には通年で教育パスに沿って教育し、全員遅出業務に就くことができた。2 年目看護師へは個人が不安を感じている技術に焦点を当てて強化し、全員拘束見習い業務に就くことができた。4 年目看護師の教育では主体性を育てるため、全員小集団活動のリーダーとした。目標達成に向け周囲と協調性を保ちながらリーダーシップを発揮できた。器械だし技術の向上のため他

施設の見学に1名参加した。スタッフに還元することで個人のキャリアアップと手術室全体の看護の質の向上に繋げた。

5) 活気ある職場作りの推進

出勤時更衣室では明るく挨拶ができていますが、退勤時の挨拶ができていないことが課題であった。輪番制で挨拶バッジをつけ積極的に挨拶を行ったことで、個人の意識も高まり定着してきている。引き続き挨拶からコミュニケーションに繋がるよう取り組んでいく。

2. 看護体制

表1 令和2年度 看護体制（令和2年4月1日現在）

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(人)
32	固定チームナーシング	拘束勤務者:3 遅出勤務者:2 ※時間外手術は拘束者と遅出勤務者で対応する

3. 手術統計

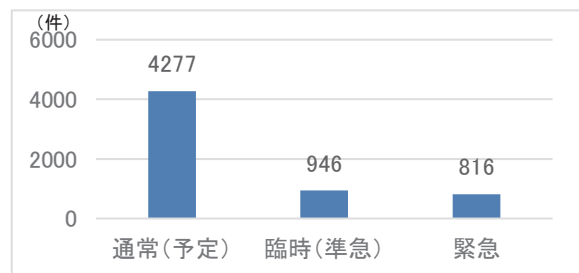
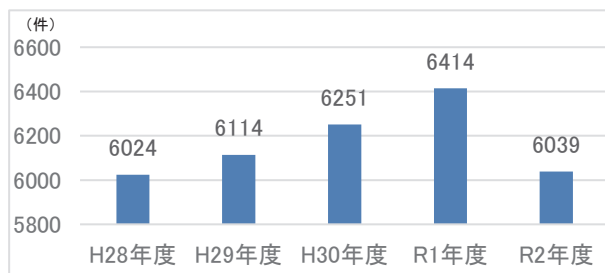


図1 手術件数の推移

図2 令和2年度 申し込み区別手術件数

手術件数(件)	外科	心外	呼外	児外	整形	脳外	産婦	泌尿	眼科	耳鼻	皮膚	形成	麻酔	他
H30年度	827	268	138	598	1894	55	220	467	821	372	234	324	6	27
R1年度	823	324	164	530	1851	82	244	465	881	394	277	345	14	20
R2年度	866	367	167	569	1866	85	204	518	668	237	209	264	3	16

図3 令和2年度 診療科別手術件数

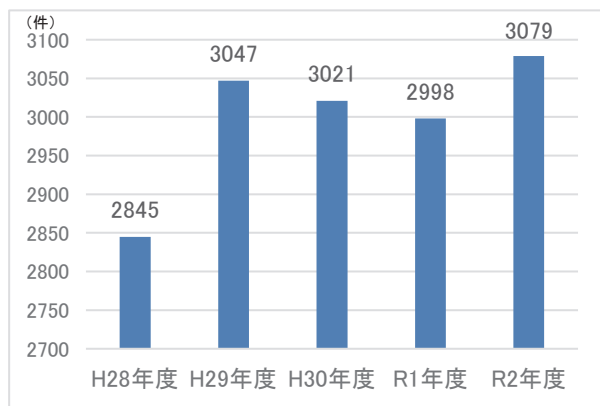


図4 麻酔科管理手術件数

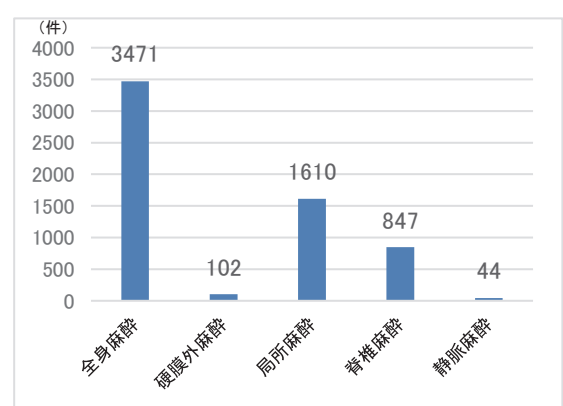


図5 令和2年度 麻酔別手術件数

4. 研究実績

- 1) 器械展開時における手術手袋ピンホール発生状況の実態調査

小林 鉄平

日本手術医学会

2020年12月4日